

## 英語分節音とジャズ楽曲のイメージの関係 —分類法とイメージ表現の妥当性の検証—

中西 のりこ  
神戸学院大学

---

### 概要

オノマトペや音象徴に代表される研究が示すように、言語音には何らかのイメージが存在すると考えられる。このイメージを英語発音指導へ結びつけるため、中西・中川 (2012) では、英語分節音を 10 のイメージグループに分けて説明する方法を試みた。本研究では、これら各グループに属する分節音が多く含まれるジャズ・スタンダード楽曲について 2 種類の調査を行い、この方法の妥当性を検証した。音楽関係者が楽曲自体に対して持つイメージと、学習者が楽曲を聴いたときに持つイメージについての 2 種類の調査の結果、さらなる精査が必要ではあるものの大枠において、上記の分節音グループごとに特定のイメージが存在することが明らかとなった。英語の発音を指導する際に、それぞれの音がどのようにして調音されるかといった音声学的な説明と同時に、どのようなイメージで発音するかといった認知的な説明を加えることで、英語の音に対する学習者の理解を促すことができると考えられるため、本研究結果は、従来の指導法とは視点を変えた英語発音指導の足掛かりとなるだろう。

**Keywords:** 言語音のイメージ, 英語発音, ジャズ楽曲

---

### 1. はじめに

日本語を母語とする英語話者の発話を不明瞭にしている要因として、日本語にはない個々の音の発音が多く指摘されている (Avery & Ehrlich, 1992, pp. 134-138; Cook, 2000, pp. 177-180; Kenworthy, 1987, pp. 149-152; Lane, 2010, pp. 242-243)。総じて、母音に関しては「顎の動きの幅」、「円唇音と非円唇音の区別」、「緊張母音と弛緩母音の区別」、子音に関しては「息の強さ」、「摩擦音の持続時間」、「鼻音の調音法」に起因する問題が、不明瞭さを一層大きくしていると考えられる。これらの問題は、発音記号や口形図によって調音法や調音点を学習者に示すだけでは解決されない。特に息の強さや子音の持続時間については、どのようなイメージで発音をするのか、といった認知的な説明を加えることで、学習者の理解が促されると考えられる。そこで中西・中川 (2012) では、調音点・調音法・有声／無声といった英語音声学による基準に、「言語音に特定のイメージが存在する」という先行研究から得られた知見を加え、英語分節音を10のイメージグループ

に分け、スタンダードジャズの歌詞を教材とした発音指導法を試みた。本研究では、初めにこれら10グループの分類法とグループごとのイメージを示した上で、このイメージ表現の妥当性を検証するために実施した2種類の調査結果を分析する。

言語音に備わっているイメージについての先行研究では、オノマトペ関連の研究(金田一, 2009; 田守・スコウラップ, 1999), 音象徴についての研究(Hinton, Nichols & Ohala (Eds.), 1994), 共感覚表現に焦点を当てたもの(吉村(編), 2004), 日本語の音韻のイメージを分類したもの(木通, 2004b), 認知言語学的アプローチ(山梨, 2012, pp. 101-131), 脳科学的な視点からの言及(Ramachandran, 2011)があるが, 研究成果を体系的に整理し, 外国語としての英語の発音指導に関連づけるといふ学術的な試みは, 現在のところ見られない。日本語の語感に関する一般書では, 感性リサーチネーミングラボ(2012), 木通(2004a), 黒川(2004, 2007, 2009)が人名や商品名, 流行語に含まれる音を分析し, 言語音のイメージを描写している。また, 英語学習者を対象とした一般書や雑誌には, 綴り字に由来する音のイメージを「言霊」と表現して英単語学習法を提示したもの(西村, 1998)や, 「ネイティブ流・新感覚ボキャビル術」として, 英単語の語源にさかのぼると考えられる音のイメージから語の意味を推測する方法を示したもの(Thayne, 2013, pp. 15-24)があり, 従来とは視点を変えた英語学習の方法を提示している。

教材としてスタンダードジャズ楽曲の歌詞を利用することについては, 「楽曲であること」「スタンダードであること」「ジャズであること」という面で, 大きく分けて以下の3つの観点から有効であると考えられる。第1に, 楽曲は何度歌っても飽きにくい上に, 1曲の中で同じフレーズが繰り返されることが多いため, 繰り返し練習が必要とされる発音練習に向いている。また, 韻を踏んだ歌詞をミニマルペアとして発音練習の素材とすることもできる。そのため, 井上・北原・久保野・田尻・中嶋・蓑山(2006), 柏木(2010), NHKテレビ(2011), 巽(2006)のように, 楽曲を利用した英語教材は数多く出版されている。第2に, スタンダード曲は古くから様々な歌い手によって歌い継がれてきているため, 多様な英語変種の音声モデルを入手しやすい。近年, 国際語としての英語(EIL)という概念が広がり, 特に発音モデルを英米語に限定しないという動きが見られる(Jenkins, 1998, 2000, 2007; Kachru, 1992; Kachru & Smith, 2008)。英語母語話者だけではなく世界中の異なる母語背景を持つ話者による英語発音が注目される中, 同じフレーズを様々な言語変種の発音で聴くことができるのは, スタンダード曲ならではの利点といえる。第3に, ジャズでは楽譜通りではない演奏についての許容度が高いため, 英語発音の初習者にも熟達した話者にも幅のある練習方法を提供することができる。初習者なら特定の歌い手の発音をそのまま真似る練習から始めることができる一方で, 熟達した英語話者ならば, 曲に対して自分が持つイメージによって, 文強勢やポーズを置く場所を工夫することができる。歌詞の解釈や心の動きに応じてリズムや速さ, イントネーションに伴うメロディラインを工夫することが可能なジャズの醍醐味といえるだろう。

## 2. 英語分節音の10分類とイメージづけ

### 2.1 母音



識することが困難なため、「舌の前面を高く」という説明は理解されにくい。そこで中西・中川（2012）では、ヒトの口の構造上、唇を横に広げると自然に前舌面が上がることに着目し、唇の形を提示して母音の調音を説明する方法を試みた（Appendix A）。さらに、これら 4 つの母音を発音する際の唇の形が笑っているように見えることから、/i/, /ɪ/, /ɛ/, /æ/の前舌母音グループを「笑顔の音，陽気な音」と名づけた。

### 2.1.2 後舌母音（甘えん坊の音，畏怖の音）

前舌母音とは対照的に、/u/, /ʊ/, /ɔ/, /ɑ/は、舌の後方が一番高くなるが、上と同様の理由から、口腔内の舌の様子を提示するのではなく、唇の横幅を狭くすると後舌面が上がるということに着目し、唇の形を提示した（Appendix A）。これら 4 つのうち、円唇を伴う /u/, /ʊ/, /ɔ/は拗ねて文句を言っている時のような表情に見えることから「甘えん坊の音」、/ɑ/は驚き、畏れている表情に見えることから「畏怖の音」と名づけた。

### 2.1.3 中舌母音（でしゃばらない音，献身的な音）

中舌母音/ə/, /ʌ/は、Appendix A で示される通り、無気力、無表情な唇になる。特に弛緩母音の/ə/は、発音に意識を向ければ向けるほど学習者の唇や舌が不自然に緊張するため、日本語母語話者にとって習得が困難な音とされている。そこで、/ə/には強勢が置かれることがないということに着目し、「でしゃばらずに、（周りの音を際立たせるような）献身的な音」というイメージづけを行った。

### 2.1.4 二重母音（遊び心の音，複雑な音）

二重母音/eɪ/, /aɪ/, /aʊ/, /ɔɪ/, /oʊ/は、ひとつの母音の中で音質が変わるだけでなく、異なった英語変種話者の間で、発音される音に大きな違いが生じる。そこで中西・中川（2012）ではアメリカ標準発音の二重母音に伴う唇の動きを示したうえで（Appendix A）、「基本をマスターしたら、出身地が異なる人や、映画などで役者さんが演じる役柄による違いも聞いて真似してみましょう（p. 76）」とし、二重母音を「遊び心の音，複雑な音」と名づけた。

### 2.1.5 r 母音，半母音（重い音，暗い音）

Rhoticity /ə/を伴う母音は暗い響きを持つため、/ɪər/, /ɛər/, /ər/, /ɑər/, /ɔər/, /ʊər/をひとまとめのグループとし、/eɪər/, /aɪər/, /aʊər/のような三重母音についても説明を加えた（p. 90）。さらに、国際音声字母では接近音に分類されている/j/, 有声両唇軟口蓋接近音/w/, 顛動音/r/の 3 つについて、「子音の仲間であるのに母音のような響きがある音（半母音）」として同じグループに含めた。これらの音は、口腔内に作られた狭い隙間を呼気が通るため、こもったような響きを持つことから「重い音，暗い音」とした。

## 2.2 子音

国際音声学による子音表 (IPA Chart, 2005) のうち、英語の子音に赤丸を加筆したものを、図 2 に示す。

THE INTERNATIONAL PHONETIC ALPHABET (revised to 2005)

CONSONANTS (PULMONIC) © 2005 IPA

	Bilabial	Labiodental	Dental	Alveolar	Postalveolar	Retroflex	Palatal	Velar	Uvular	Pharyngeal	Glottal
Plosive	p b			t d		ʈ ɖ	c ɟ	k ɡ	q ɢ		ʔ
Nasal	m	ɱ		n		ɳ	ɲ	ŋ	ɴ		
Trill	ʙ			ʀ					ʀ		
Tap or Flap		ⱱ		ɾ		ɽ					
Fricative	ɸ β	f v	θ ð	s z	ʃ ʒ	ʂ ʐ	ç ʝ	x ɣ	χ ʁ	ħ ʕ	h ɦ
Lateral fricative				ɬ ɮ							
Approximant		ʋ		ɹ		ɻ	ɰ	ɯ			
Lateral approximant				ɭ		ɭ	ʎ	ʟ			

Where symbols appear in pairs, the one to the right represents a voiced consonant. Shaded areas denote articulations judged impossible.

図 2. 国際音声字母による子音 (IPA Chart, 2005, 筆者加筆)

上の表では破擦音/ $\dʒ$ /と/ $\dʒ$ /が示されていないが、これら 2 つは英語発音の指導上欠かせない分節音であるため、IPA Chart に示されている要素に追加することにした。ただ、/ $\dʒ$ /、/ $\dʒ$ /の 2 音だけを 1 つのグループとしてイメージづけすることが困難であることから、破擦音を閉鎖音とともに 1 グループにまとめることにした。図 2 に対してこの 2 点の修正を加えるに至った経緯を以下に示す。

まず、音声学の一般的なテキストでは、例えば Lane (2010) が “There are 24 consonants<sup>1</sup> in North American English (p. 117).” と述べ、/ $\dʒ$ /と/ $\dʒ$ /を子音リストに含めている。同様に、Avery & Ehrlich (1992, p. 26), Collins & Mees (2008, p. 41, 80), 窪菌 (1998, p. 23), 松井 (1978, p. 16), 竹林 (2008, p. 81) でも、IPA Chart とは別に、破擦音の行を追加した形の分類表を提示している。テキストの章立てとしても、破擦音をひとつのまとまりとして取り上げたものが多い (Carr, 2002, p. 12; 今井, 2007, pp. 57–59; 松井, 1978, p. 31; 竹林, 2008, pp. 105–107)。少し変わった章立てでは、Lane (2010, pp. 131–135)で、/ $s$ /、/ $z$ /、/ $\dʒ$ /、/ $\dʒ$ /、/ $\dʒ$ /が Sibilants としてまとめられている他に、牧野 (2005, p. 63) で、破擦音が摩擦音と共にひとつの章を構成している。

一方で牧野は/ $\dʒ$ /の解説として「日本人が発音すると母音間や語末で[ʒ]になってしまうことがあるので、しっかりと舌尖を歯茎に密着させて破裂させるようにすること (p. 63)」と述べ、破擦音の閉鎖音 (破裂) 的特徴についても言及している。破擦音の閉鎖音的特徴については、Carr (2002) が「破擦音とは開放段階がゆるやかで摩擦を伴っている

ような閉鎖音だと考えてもよいだろう (p. 12)」と述べている他に, Collins & Mees (2008, p. 47) が図式化した英語の子音体系でも, 破擦音 (Affricates) は閉鎖音 (Stops) の下位に位置づけられている (図 3)。破擦音は文字通り「破裂」と「摩擦」の両方の要素を持った音ではあるが, どちらかといえば「破裂」の要素を強く持っていると考えられる。また, 日本語母語話者にとっては, 牧野が示す通り破擦音に閉鎖 (破裂) が伴わないということが問題となりがちであるため, 本研究では破擦音 /tʃ/, /dʒ/ を閉鎖音 /p/, /b/, /t/, /d/, /k/, /g/ のグループに追加する。

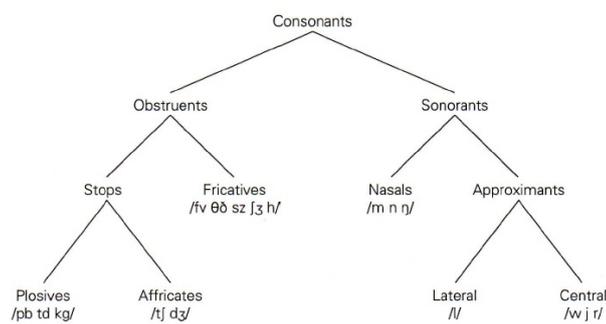


図 3. 英語の子音体系 (Collins & Mees, 2008, p. 47)

このようにして /tʃ/, /dʒ/ を追加した子音表から, すでに半母音として 2.1.5 で取り上げた /r/, /j/ を省くと, 図 2 は最上段から順に, Plosive (閉鎖音) + Affricate (破擦音) の 8 音, Nasal (鼻音) の 3 音, Fricative (摩擦音) の 9 音, Lateral approximant (側面接近音) の 1 音から成る 4 行の表となる。さらに, 閉鎖音 + 破擦音の行と摩擦音の行に含まれる子音を, 有声音であるか無声音であるかを基準にそれぞれ 2 分割すると, 4 グループとなる。これに, 鼻音と側面接近音をまとめたグループを加えた計 5 グループを, 子音のグループ分類とする<sup>2</sup>。

### 2.2.1 無声閉鎖音 + 無声破擦音 (軽やかな音, 前進する音)

本論の冒頭で述べたように, 子音に関して日本語母語話者が抱える英語発音の問題は, 舌や唇がどのような状態になるかといった調音点だけではなく, 呼気の強さや長さにも関連する調音法に注目しなければ解決しないと考えられる。そのため, 中西・中川 (2012) では Appendix B に示されるように調音点を側面と前面から口形図で示すだけでなく, /p/, /t/, /k/ の説明として「[ポンポン][トントン][コンコン]と試してみてください。リズムよく軽やかな感じがしませんか? (p. 104)」というように, 日本語のオノマトペのイメージを利用した。さらに, 閉鎖から破裂への連続した動きが日本語の場合よりも激しいことを, 風船を破裂させるイメージを使って説明し, /p/, /t/, /k/, /tʃ/ の無声閉鎖音, 破擦音

のグループを「軽やかな音, 前進する音」と名づけた。

### 2.2.2 有声閉鎖音＋有声破擦音（心残りの音, 停滞する音）

/b/, /d/, /g/, /dʒ/は有声音であるという点で, 上記の4つの音と対をなしている。イメージづけとして, Ramachandran (2011) の実験結果<sup>3</sup>を紹介し, “Booba”の方が“Kiki”よりも「どんよりとした感じが伴う」という有声音に対する意識づけを行い, このグループを「心残りの音, 停滞する音」とした。

### 2.2.3 無声摩擦音（密やかな音, 静けさの音）

無声摩擦音では, 特に/f/と/θ/が日本語にはないため問題となりがちであるが, 学習者が調音点を理解し, 下唇と上歯, 舌先と上歯を接触させることができたとしても, 息が弱い, もしくは持続時間が短いと, 結局不明瞭な発音となってしまう可能性が高い。そこで, 摩擦の持続を促すため「騒がしい音をやめさせる時に言う[シーツ]という音は, しっかりと響かなければ元々の騒がしい音にかき消されてしまいます (p. 134)」というように, 日本語のsh音に伴うイメージを利用した説明を行い, /f/, /θ/, /s/, /ʃ/, /h/の無声摩擦音グループを「密やかな音, 静けさの音」とした。

### 2.2.4 有声摩擦音（重厚な音, 壮大な音）

/v/, /ð/, /z/, /ʒ/は摩擦音であるという点で閉鎖音より広がりのある響きを持ち, 有声音であるという点で無声音より重い響きを持つと考えられるため, 閉鎖音と摩擦音, 有声音と無声音の違いを示した上で「重厚な音, 壮大な音」と名づけたが, 9グループ目ともなると学習者自身が何らかの音のイメージを構築することができると考え, 「よりシックリくるキーワードがあれば, 自分なりの名前をつけてください (p. 148)」とした。同時に, /v/と[バ行], /ð/と[ザ行], /z/と[ジ]のペアの音の響きに伴うイメージが異なるということを学習者が実感できるように, 音声学的な説明を加えた。

### 2.2.5 鼻音, 側面接近音（優しい音, 柔らかい音）

最後のグループとして, 鼻音/m/, /n/, /ŋ/と側面接近音/l/を1つにまとめた。/l/は接近音の種類であるという点で2.1.5のグループに加えることも可能だが, 特に日本語母語話者が区別に苦勞する/l/と/r/を別のグループに分類することによって, 異なる音であるというイメージが定着すると思った。また, 学習者が問題を抱えるのが母音の前の/l/と/r/の区別であることを考慮すると, [l]の異音のうち, 語末や子音の前に表れる暗い[l]よりも, 母音の前に現れる明るい[l]に注目する必要がある。ここで, 明るい[l]が明るい響きを持つのは自明のことであるのに対し, 円唇を伴う/r/は暗い響きを持つため, この2つを同じイメージグループに分類することは賢明ではない。さらに, /m/, /n/, /ŋ/は鼻腔内, /l/は口腔内

の舌の側面を呼気が通るのに伴って、話者の体温が音と共に聞き手に伝わるような柔らかい響きを持っているという点で、これらの4つの音の共通点を見出すことができる。そこで、鼻音/m/, /n/, /ŋ/と側面接近音/l/を「優しい音、柔らかい音」という1つのイメージグループに分類した。

### 3. 検証の方法

初めに、「ジャズ」の定義づけを試みた。中山(2001)が著書の冒頭で「ジャズという音楽は、音楽以前の問題として、その周辺にじつに難解かつ厄介な問題をかかえているジャンルである(p. 8)」と述べているように、一部のジャズ通の間では「こうでなければジャズではない」という音楽的な定義が存在するようだ。一方で、例えば元々映画音楽やロック音楽として作曲された楽曲であっても一般的に「ジャズ」と認識されていればジャズであるという定義も存在する。実際に、音楽番組の制作歴が長い井上, S. (2011年11月12日), ヴォイストレーナーの中村, T. (2012年4月8日), 若手ヴォーカリストとして注目されている三田, Y. (2012年6月19日)との私信によっても、3人が共通して「演奏者がジャズと認識していればジャズである」という見解を持っていることが確認された。しかも、本研究でスタンダードジャズ曲を教材とするに至った要因を振り返ると、冒頭で述べたように「繰り返し練習に向いていること」「多様な英語変種の音声モデルを入手しやすいこと」「発音練習の自由度が高いこと」の3点を満たすことの方が、楽曲が音楽的にどのジャンルに属するかということよりも重要である。結論として、楽曲に対して音楽的論評を加えることを目的とはしていない本研究では、作詞・作曲されるに至った経緯、主となる演奏者の資質や、楽曲の演奏形態を基準とした定義づけは行わず、一般的に「ジャズ」と呼ばれている楽曲ならば上記の3点を満たしていると考え、ジャズの定義をできる限り広く捉えることにする。

次に、教材候補とする楽曲を選出した。2種類のジャズヴォーカル譜集(富塚, 2002, 2008)に掲載されている60曲と、オムニバスCD4枚組(EMI Music, 2006)に収録されている100曲から、重複する25曲を削除した上で、Wilson(1999)によるウェブサイトから“A list of the 1000 most-frequently recorded jazz standard compositions”の上位65タイトルを加え、200の楽曲リストを作成した。そして、このリストから日本国内で比較的頻繁に演奏されている110の楽曲<sup>4</sup>を選出するため、200の楽曲をアルファベット順に並べた調査紙を作成した。10人のセミプロもしくはアマチュア・ジャズヴォーカリストに配布し、「歌ったことがある曲」に◎、「聴いたことがある(が自分では歌ったことがない)曲」に○、「知らない曲」に×印をつけるよう依頼し、回収後、「◎ = 2ポイント, ○ = 1ポイント, × = 0ポイント」として重みづけを行い演奏頻度ポイントとして集計した。さらに、合計ポイント数の高い楽曲から順に歌詞をテキストデータとして入力し、1曲に含まれる語数が500語を超えるものをリストから外しつつ<sup>5</sup>, 演奏頻度ポイントが上位の

110 曲の歌詞データベースを作成した。なお、歌手によって歌詞が異なるケースが非常に多いため、データベース作成時には、村尾（1990–2010）に掲載されている歌詞を基本とし、収録されていないものについては Wilson (1999)を参考にした。

最後に、このデータベースを元に、110の楽曲の歌詞に含まれる語 ( $n = 14,316$ ) の分節音数をカウントした。まず異なり語リストを作成する際に、例えば短縮形において “I will” と “I’ll” では前者が/w/の音を持つ、省略形において “because” と “’cause” では前者が/bɪ/の音を持つ、動詞の屈折において “go” と “gone” では後者が/n/の音を持つ、口語表現において “Don’t you” と “Don’tcha” では/j/と/ʃ/という異なった音を持つ、というようにそれぞれ響きが異なると考え、綴り字が異なるものは全て異なり語としてリストに残した。次に、このようにして抽出された2,118語の異なり語をIPA表記で書き起こし分節音ごとに切り分けた上で、元の14,316語に対応させた結果、110曲に含まれる分節音は43,913個(45種類)となった。なお、強形と弱形で発音が異なるものについては、全て強形の表記に統一した。以降の分析では、例えば、2.1.1「笑顔の音、陽気な音」に属する前舌母音/i/, /ɪ/, /e/, /æ/が多く含まれる曲が実際に「笑顔、陽気」というイメージを持つか、というように、10グループに割り当てたイメージ表現の妥当性を探るため、曲ごとに含まれる各分節音の比率が必要となる。そのため、どの曲にどの分節音が何個含まれているかというマトリックスを作成し、曲ごとの総分節音数に対する比率を算出した。そして、例えば前舌母音グループでは、1曲の中で/i/, /ɪ/, /e/, /æ/の音が占める合計比率、というように、分節音グループごとの比率も算出した。

### 3.1 音楽関係者アンケート

楽曲の歌手を限定せずに、曲の歌詞、リズムやメロディーと、各イメージグループに含まれる分節音の比率との関係を探るために、音楽関係者を対象に調査を行った。

上記のマトリックスを元に、1曲の中で各分節音グループの音が占める比率が高い順に3曲ずつを選出し、10グループ×3曲のタイトルリストに、2.1-2で名づけたイメージ表現を提示した調査紙を作成した (Appendix C)。この時、例えば『Sing, Sing, Sing』のように同じ語が何度も繰り返されるタイプの曲では、無声摩擦音/s/, 前舌母音/i/, 鼻音/ŋ/が極端に多くなるため、同じ曲であっても複数の分節音グループの上位曲として選出されてしまうが、調整は行わなかった。一方、調査紙の中に同じ曲が2度現れると、1度目に見た時と2度目に見た時で回答者の心理状態が異なることが懸念されたため、同一の内容で質問項目の順序を入れ替えた調査紙を作成し、アンケート A, B として、回答者にはどちらか一方のフォームを手渡すことにした。調査紙は、各曲のイメージが、提示されたイメージ表現と「合っていれば○」、「違っていれば×」を記入し、分からなければ空白のままにするという形式にした<sup>6</sup>。

調査は、2013年2月から3月にかけて、神戸市内と加古川市内のジャズ・カフェを訪れた常連客 ( $n = 12$ ) に依頼し、実施された。調査協力依頼の際には、隣同士に座っていたり会話をしたりしている回答者が異なった順序で回答するよう、アンケート A と B

の別々のフォームを手渡した。楽曲の歌詞、リズム、メロディーのどれか1つの要素ではなく楽曲の全体的なイメージを元に回答するよう依頼したが、2人のヴォーカリストを除くと、リズムとメロディーは思い浮かんでも歌詞はよく知らないという回答者が圧倒的に多かった。

調査紙の回収後、まずは曲ごとに記入された「○、×」の数を集計し、次に「○ = 1」、「× = -1」という数値を割り当て加算したものをイメージ合致ポイントとし、それぞれの曲のイメージが分節音のイメージ表現とどのくらい合致しているかを計る目安とした。最後に、曲ごとのイメージ合致ポイントを分節音グループごとに集計した。分析の際には、分節音グループごとの合致ポイントにまず注目し、ポイントが高く／低くなった要因を探るために曲ごとのポイント、さらに「○、×」の数というように、一番大きな枠組みから小さな枠組みへという順に分析を行った。

### 3.2 学習者アンケート

実際に各イメージグループで1曲ずつの楽曲を教材として使用し、分節音のイメージを網羅的に説明するためには、例えば前舌母音のグループなら*/i/*, */ɪ/*, */e/*, */æ/*の4音すべてがバランスよく歌詞の中に含まれている曲を選出する必要がある。そこで音楽関係者アンケートとは別に、教材として使用できる10のイメージ曲を選出し、その曲を聴いた時に学習者がどのように感じるかを探るために、英語を専門としない大学生 ( $n = 18$ ) を対象に調査を行った。

まず、分節音グループの各音が(1)必ず1回は曲の中に出現すること、(2)曲中で占める合計比率が高いこと、(3)バランスよい頻度で出現すること、そして、(4)曲調と歌詞のイメージが分節音グループに割り当てたイメージ表現と大きく異なっていないこと、という優先順位をつけた基準を元に、10曲の選出を行った。特に、(1)の要件を満たす曲が音楽関係者アンケート用に選出した上位曲に含まれないケースも見られたが、教材として使用するためには、全ての分節音を10曲でカバーすることが必須であると考え、譲歩しなかった。唯一、有声摩擦音*/ʒ/*だけは110曲すべてを分析しても“Tunisia”という固有名詞にしか出現しない上に、この語は*/t(j)uniz(ɪ)ə/*と発音する話者もいれば*/t(j)uniz(ɪ)ə/*, */t(j)unis(ɪ)ə/*のように*/ʒ/*を発音しない話者もいるため語例として適切ではないと判断し、有声摩擦音グループに限り、(1)の条件を外した。

このようにして選出された10曲のタイトルと、該当する分節音の合計が曲中で占める比率を表1に示す。表中で、数値が太字で示されている部分を交点とする行、列の組み合わせを教材として採用した。例えば、①前舌母音グループの練習教材としては①『Cheek to Cheek』が採用された。数値を縦に比較してみると、必ずしもその分節音グループの比率が最も高い曲が採用されていないことが分かる。最も極端な例では、②後舌母音の練習教材として②『Someone to Watch over Me』が採用されているが、これは、特に*/ɔ/*の出現率がどの曲においても元々低いため、上記(1)、(3)の「後舌母音を必ず1つは含み、4つの音がバランスよい頻度で出現すること」という基準を満たす上で最適な曲となったためである。同様に、数値を横に比較しても、1曲の中で最も比率が高い

分節音グループが選ばれているわけではない。これは、全体的に見て10の分節音グループに属する音の出現率が等分ではないためである。

表 1

イメージ曲に含まれる分節音の割合 (%)

曲	① 前 舌 母 音	② 後 舌 母 音	③ 中 舌 母 音	④ 二 重 母 音	⑤ r 母 音 半 母 音	⑥ 無 声 閉 鎖 破 擦 音	⑦ 有 声 閉 鎖 破 擦 音	⑧ 無 声 摩 擦 音	⑨ 有 声 摩 擦 音	⑩ 鼻 音 側 面 接 近 音
①Cheek to Cheek	<b>16.83</b>	0.97	11.8	7.54	7.93	16.63	6.58	9.48	6.77	15.47
②Someone to Watch over Me	14.41	<b>5.08</b>	9.11	8.26	8.69	10.59	6.78	10.17	7.63	19.28
③Love for Sale	9.07	3.47	<b>12.55</b>	9.65	10.04	10.81	4.44	10.81	11.39	17.76
④Sweet Georgia Brown	11.44	4.01	6.54	<b>9.81</b>	11.59	11.14	11.89	12.18	6.98	14.41
⑤Cry me a River	12.73	7.58	7.88	10.3	<b>23.03</b>	7.58	5.15	3.64	7.27	14.85
⑥Route 66	15.34	5.82	6.88	7.41	11.64	<b>18.25</b>	5.29	11.38	3.97	14.02
⑦Bye Bye Blackbird	9.09	5.61	5.61	10.64	13.54	8.7	<b>17.41</b>	7.16	4.45	17.79
⑧Mack the Knife	13.59	3.18	9.55	7.22	10.19	12.53	9.55	<b>11.46</b>	8.49	14.23
⑨Love is a Many-... <sup>a</sup>	15.36	1.87	11.61	4.87	8.99	10.49	6.74	8.61	<b>9.74</b>	21.72
⑩When You're Smiling	12.68	5.48	7.49	8.36	15.85	8.93	4.61	9.8	4.03	<b>22.77</b>

<sup>a</sup> ⑨Love is a Many-Splendored Thing.

学習者アンケートは、必ずしもジャズ曲に精通していないであろう大学生を対象にして実施されたため、楽曲のタイトルだけを提示しても、曲自体を知らない回答者が多いことが懸念された。そこで学習者に対しては、曲のタイトルや歌詞を読むのではなく曲を聴いて、思いついた形容詞を複数回答で自由記述するという形式の調査を行った。回答者にも馴染みがあるプロミュージシャンによる演奏の場合、楽曲を聴いたイメージではなくそのミュージシャンに対するイメージが回答に影響を及ぼす可能性が高いため、セミプロもしくはアマチュアのヴォーカリスト10人とプロのジャズピアニストによる演奏を収録した。収録日までにヴォーカリストを対象とした3～6か月の英語発音レッスンを行い、(1)一般的に流通している楽譜にできる限り忠実に演奏すること、(2)ピアノによる前奏や間奏をできる限り省くこと、(3)歌唱は同じ歌詞を何周もせず1st chorusのみとすること、という条件で収録準備をした。収録は2012年6月中旬に、大阪市内の音楽スタジオで2日間に渡って行われた。

アンケート調査は、2012年9月下旬に、非英語専攻の大学2年生を対象とする授業の初日に、後期授業で扱う発音練習のイントロダクションの一部として行われた。18人のうち、ジャズ曲を演奏

した経験がある回答者が2人含まれていたが、歌ったことがあるという回答者はいなかった。エクセルで作成した入力フォームを教室内のPCへ一斉配信し、上記の10曲分の演奏が流れている時間内に「思いついた形容詞をできるだけ多く記入してください」と依頼した。回答者は、聞き取ることができた歌詞の一部や曲のリズムやメロディーから連想される形容詞をフォームに入力した。10曲の演奏時間は合計18分となった(最短1分14秒, 最長2分57秒)。

演奏終了後、教室内のPCから一斉回収された入力フォームには660語の書き込みがあった。この中から、はじめに、「うまい」「ステキ」「good」「nice」のようなヴォーカリストの歌唱力と、「(声が)高い」「低音」のような声の高さに関すると思われる表現( $n = 89$ ), さらに「cheek」「someone」「smiling」のように歌詞を聴いたまま入力したと思われる表現( $n = 38$ )を分析対象から外した。次に、「明るい」と「あかるい」や、「かっこいい」と「クール」, 「cool」のような同義語と考えられる表現をまとめ、48種類の形容詞を抽出した。

分析の際には、まず、これら48の頻出形容詞がどのように分布するかをまとめ、曲ごとに出現頻度5位までの形容詞をリストアップした。次に、これらの頻出形容詞が、分節音グループのイメージ表現と意味上どれほど合致しているかを調べた。

## 4. 結果

### 4.1 音楽関係者アンケート

アンケート集計結果を表2に示す。曲のタイトルは、グループごとに、該当する分節音が出現する合計比率が高かった順に提示している。

イメージ分類ごとの合計ポイントを概観すると、①前舌母音(16ポイント), ③中舌母音(17ポイント), ④二重母音(13ポイント), ⑥無声閉鎖破擦音(27ポイント), ⑩鼻音側面接近音(22ポイント)については、提示した曲のイメージと分節音イメージ表現との合致ポイントが比較的高かった。これらのイメージ表現の性質に注目すると、①「笑顔」, ③「でしゃばらない」, ④「遊び心」, ⑥「軽やか」, ⑩「優しい」のようにプラスイメージを持った表現となっている。さらに「○」, 「×」の数に注目すると、⑥無声閉鎖破擦音グループの3曲については、「×」の印が皆無、⑩鼻音側面接近音グループでは1つだけであった。ただし、①前舌母音グループの『Feelings』と、④二重母音グループの『Yesterday』については、イメージ合致ポイントが負の数値となり、示されたイメージ表現と曲のイメージが合っていないと感じる回答者の方が多いことが示された。①については、曲中何度も繰り返される“feelings”という語が、この曲の場合「愛する人を失った悲しい気持ち」を示すものであることが一因となっている。④については、アンケート調査終盤になってから「ビートルズですか、ビリーホリデイですか」という質問があったことから、実際に歌詞データベースに入力した J. Lennon & P. McCartney 作詞の『Yesterday』ではなく、O. Harbach 作詞の『Yesterdays』という別の楽曲を思い浮かべて判断した回答がすでに回収した調査紙の中に混在する可能性があることが判明した。

表 2

音楽関係者アンケートに記入された○, ×の数と曲ごと, 分類ごとの合致ポイント

分類(イメージ)	タイトル	○	×	ポイント	計
①前舌母音 (笑顔, 陽気)	Sing, Sing, Sing	11	0	11	
	It's Only a Paper Moon	10	0	10	
	Feelings	1	6	-5	16
②後舌母音 (甘えん坊, 畏怖)	Johnny Guitar	4	3	1	
	I Don't Know Why	2	1	1	
	More than You Know	1	1	0	2
③中舌母音 (でしゃばらない, 献身的)	Unforgettable	6	0	6	
	Alone Together	5	1	4	
	You'd Be So Nice to Come Home to	8	1	7	17
④二重母音 (遊び心, 複雑)	Day by Day	10	0	10	
	Ain't Misbehavin'	5	0	5	
	Yesterday	3	5	-2	13
⑤ r 母音半母音 (重い, 暗い)	Cry Me a River	9	1	8	
	Moon River	2	8	-6	
	More than You Know	3	0	3	5
⑥無声閉鎖破擦音 (軽やか, 前進)	Take Five	9	0	9	
	Route 66	11	0	11	
	Cheek to Cheek	7	0	7	27
⑦有声閉鎖破擦音 (心残り, 停滞)	Bye Bye Blackbird	3	4	-1	
	Stand by Me	3	6	-3	
	Georgia on My Mind	7	3	4	0
⑧無声摩擦音 (密やか, 静けさ)	Sing, Sing, Sing	0	8	-8	
	My Foolish Heart	6	1	5	
	The Girl from Ipanema	2	6	-4	-7
⑨有声摩擦音 (重厚, 壮大)	The Days of Wine and Roses	7	3	4	
	Love (L-O-V-E)	1	7	-6	
	My Favorite Things	0	7	-7	-9
⑩鼻音側面接近音 (優しい, 柔らかい)	Feelings	8	1	7	
	Someday My Prince Will Come	8	0	8	
	My Romance	7	0	7	22

一方で、②後舌母音 (2 ポイント)、⑤ r 母音半母音 (5 ポイント)、⑦有声閉鎖破擦音 (0 ポイント)、⑧無声摩擦音 (-7 ポイント)、⑨有声摩擦音 (-9 ポイント) については、合致ポイントが低かった。特に⑧、⑨の摩擦音の2グループでは数値がマイナスとなった。要因の1つとして、『Sing, Sing, Sing』が⑧無声摩擦音と①前舌母音の両方のグループで出現比率ランキング1位となっていることから分かるように、同一の曲が異なった複数のイメージグループに含まれるという問題が考えられる。2つ目には、本論冒頭で述べたように日本語母語話者が発音する摩擦音の持続時間が短いということから、回答者の摩擦音に対する意識が低いということが考えられる。実際、異なる歌い手によるこれらの曲の演奏を数種類ずつ筆者が聴いたところ、ややかすれた声の出し方で、摩擦音を響かせる歌い方が印象に残った。さらに、②後舌母音、⑤ r 母音半母音、⑦有声閉鎖破擦音のイメージ合致ポイントが低かったことの要因として、楽曲の知名度が影響していると考えられる。例えば②『I Don't Know Why』と②⑤『More than You Know』は空白回答が極端に多かったことから、タイトルを見ただけでは回答者が曲をイメージできなかったと考えられる。逆に⑤の2曲や⑦の3曲は特定の映画やアーティストによる演奏によってよく知られているため、曲そのもののイメージよりも映画の内容やアーティストのイメージが色濃く回答者の印象に残っている可能性が高い。

以上のように、今回の音楽関係者アンケートでは、摩擦音の2グループで合致ポイントがマイナスとなった一方で、半数のグループではイメージ表現と曲のイメージが合致することが示された。

## 4.2 学習者アンケート

学習者アンケート結果から抽出された48の頻出形容詞のうち曲ごとの頻度順位が5位までの語とその個数を表3に示す。本論2.1と2.2で各分節音グループに割り当てたイメージ表現と比較すると、大枠において学習者の曲に対する印象との間に隔たりがないことが分かる。特に、①、④、⑤、⑥、⑨については、例えば①では「楽しい、明るい、幸せ…」という語が「笑顔、陽気」というイメージ表現とも「ニコリ笑っている時のように唇の横幅が広がる」という前舌母音の説明とも結びつく、というように、イメージ曲、音声学的分類とそのイメージ、学習者アンケートから得られたイメージの3つの要素に整合性が見られた。同様に、④では、「楽しい、カッコいい、明るい」という語が「遊び心」と結びつき、「明るい、暗い」という対照的な語が同時にリストにあがっていることから「複雑」というイメージ表現と関連づけることができる。⑤、⑥では分節音グループにあてたイメージ表現とほとんど同義の語が学習者の回答中に見られた。さらに⑨で学習者がイメージした語は「重厚、壮大」というイメージ表現を詳しく説明した語のようになっている。

表 3

学習者アンケートに記入されたイメージ (n)

曲	分類(イメージ)	学習者アンケートから抽出されたイメージ
①	前舌母音 (笑顔, 陽気)	楽しい(16), 明るい(10), 幸せ(7), 可愛い(4), 美しい(3), 嬉しい(3), 落ち着いた(3), ゆっくり(3)
②	後舌母音 (甘えん坊, 畏怖)	悲しい(10), ゆっくり(9), 美しい(7), 暗い(6), 寂しい(5)
③	中舌母音 (でしゃばらない, 献身的)	楽しい(7), 明るい(6), 美しい(5), 強い(4), 速い(4)
④	二重母音 (遊び心, 複雑)	かっこいい(10), 楽しい(10), 明るい(7), 暖かい(3), 暗い(2), 元気(2), 強い(2), リズムがよい(2)
⑤	r 母音半母音 (重い, 暗い)	悲しい(13), 寂しい(7), 暗い(6), ゆっくり(6), きれい(5), 優しい(5)
⑥	無声閉鎖破擦音 (軽やか, 前進)	楽しい(12), 明るい(7), かっこいい(3), 速い(3), 軽い(2), 元気(2), 心地良い(2), 幸せ(2), 優しい(2)
⑦	有声閉鎖破擦音 (心残り, 停滞)	明るい(4), 落ち着いた(4), 楽しい(4), 暖かい(3), 悲しい(3), きれい(3)
⑧	無声摩擦音 (密やか, 静けさ)	楽しい(11), 明るい(8), かっこいい(5), 美しい(3), 静か(3), 強い(3)
⑨	有声摩擦音 (重厚, 壮大)	美しい(6), ゆっくり(6), 落ち着いた(5), 優しい(4), きれい(3), 静か(3), 優雅な(3)
⑩	鼻音側面接近音 (優しい, 柔らかい)	楽しい(8), ゆっくり(6), 明るい(5), 美しい(4), きれい(4)

注: 曲名は表 1 に示したものと同一。

一方で, ②, ③, ⑦, ⑧, ⑩については, 完全に的外れではないにしても, 分節音説明のためのイメージ表現の提示の仕方, 分節音グループに割り当てるイメージ曲選出方法に工夫の余地があることが示された。まず, ②では「悲しい, ゆっくり, 美しい, 暗い, 寂しい」という語だけでは必ずしも「甘えん坊, 畏怖」というイメージが湧かず, 「拗ねたり畏れたりしている時のように, 唇の横幅が狭くなる」という後舌母音の説明とも結びつかない。また, ③では「強い, 速い」という語がリストに含まれることから, 中舌母音 /a/, /ʌ/のうち, はっきりとした緊張母音である /ʌ/のイメージに近い回答結果となった。最後に, ⑦, ⑧, ⑩では, 1分節音グループのイメージを1曲で説明することの限界が示さ

れた。つまり、⑦では「苦しかった過去を振り返りながらも、そんなことは忘れて旅立とう」という実は前向きなメッセージ、⑧では「ナイフを隠し持っている男が、町に戻ってきたに違いない」というストーリー、⑩では「あなたが笑っていれば」という主となるメッセージと同時に「あなたが泣いていれば」という逆パターンが提示される、というように、1曲の中で伝えられている内容に変化があるため、歌い手、聴き手が1曲のうちのどの部分に注目するかによって、曲全体のイメージが異なる。しかし、視点を変えてこのことを利用するならば、ストーリー性のある楽曲ではスタンザごとに分けて分節音をカウントすることで、ストーリー展開に伴う分節音の出現率の変化が明確になるため、複数の分節音グループに属する音のイメージの説明を1曲の中で行うことができる<sup>7</sup>。

以上のように、今回の学習者アンケートからは、教材用に選定した曲のうち半数は、音声学的分類とそのイメージ表現と整合性のあるイメージを学習者に与えることが示唆された。また、1つの分節音グループのイメージ曲として1曲の楽曲を割り当てることの限界が明らかになったことで、新たな教材提示の方法の可能性が見出された。

## 5. 考察

言語音に何らかのイメージが備わっていることは、先行研究から明らかである。日本語母語話者が日本語のオノマトペに持つ感覚を英語発音指導にも応用すれば、英語の分節音にもイメージがあるという前提は理解されやすいと考えられる。本研究では、英語分節音を音声学的に分類した10のグループのイメージを、発音する際の顔の表情や息の出し方に伴うイメージに関連させて説明した。同時に、スタンダードジャズ曲の特性を生かし学習者に提示することで、このイメージを伝えることができるかどうかを検証した。

音楽関係者アンケート、学習者アンケートの2種類の調査の結果、前舌母音、二重母音、無声閉鎖破擦音の3つのグループについては、これらのグループに属する分節音の出現率が高い楽曲のイメージが、音声学的な視点から名づけた分節音のイメージ表現と合致することが明らかとなった。

一方で、中舌母音、鼻音側面接近音の2グループについては、音楽関係者アンケートでは分節音イメージと楽曲イメージとの間に整合性が見られたが、1曲のみを提示した学習者アンケートでは、楽曲の中で注目する部分によって受ける印象が異なると考えられるため、学習者が曲に対して持ったイメージだけでは分節音イメージを説明しきれないことが分かった。反面、r母音半母音、有声摩擦音の2グループについては、音楽関係者に提示した3曲では分節音イメージと楽曲イメージとの間に隔たりがあることが示されたが、学習者アンケートでは、分節音イメージと学習者が曲に対して持ったイメージが合致した。

言語音を歌詞とする限り、該当するグループに属する分節音の出現率が100%である楽曲はあり得ないということ、分節音によって出現率が異なるということ、回答者が楽曲のどのような要素に注目して曲のイメージを決めるかは人によって異なること、などの制

約の中で、10グループのうち7グループについて、2つの調査の両方もしくはいずれかで分節音イメージと楽曲イメージの合致が見られたことは、英語の分節音にも普遍的なイメージが備わっているということを実証するに足る結果といえるだろう。

最後に、音楽関係者アンケート、学習者アンケートのどちらでも分節音イメージ表現と楽曲イメージに隔たりが見られた後舌音、有声閉鎖破擦音、無声摩擦音の3グループについては、特定の演奏者のイメージが楽曲そのもののイメージより強いと考えられる楽曲を避けるという選曲の工夫によって改善されるであろうことが示唆された。また、1つの楽曲で1つの分節音グループのイメージを提示することが困難であることが明らかになったことを視点を変えて利用すれば、1つの楽曲中のストーリー展開に伴うイメージの変化を、分節音出現率の変化に関連づけて説明することができるため、より効率のよい教材提示の方法の可能性があることが示唆された。

## 注

1. /ɣ/と/dʒ/の他に、IPA Chartの子音表には含まれていない/w/を追加すると、Lane (2010)の24 consonantsとなる。
2. 本来は/st/、/dr/などの子音連続も分節音として扱うべきであるが、子音連続を集めてひとつのイメージグループとするには感覚的に異なる響きを持つものが多すぎるため、「子音連続の例(中西・中川, 2012, p. 11)」というリストを提示しつつ、それぞれのイメージグループ内で子音連続の項目を設け、例えば/st/は無声摩擦音と無声閉鎖音の両方、/dr/は有声閉鎖音と半母音の両方で紹介することにした。
3. 「でこぼこした丸みのあるアメーバのようなかたちの図形」と「割れたガラス片のようにとがった角のある図形」のどちらが「キキ(kiki)」でどちらが「ブーバ(booba)」かを判断するという実験において、98%の人が「ぎざぎざの図形がキキで、アメーバのような図形がブーバ」だと答えたという結果がRamachandran (2011, pp. 106–108)で示されている。また、英語を話さないタミール語族の人びとを対象にした調査においても同様の結果が得られたということから、このイメージの普遍性が示唆されている。
4. この時点で、10のイメージグループに属する分節音の比率が高い練習用10曲と「発音練習に使えるジャズ・スタンダード曲100選(中西・中川, 2012, pp. 180–185)」を作成することが決定していたため、選出する曲数を計110曲とした。
5. ジャズでは、同じ歌詞がリズムパターンを変えて1<sup>st</sup> chorus, 2<sup>nd</sup> chorus...として歌われることが多い。一方で、歌詞の語数が多い曲は、1曲の中で同じ歌詞が繰り返されるのではなくストーリー性をもって場面が展開していくため、発音練習教材として必要な「繰り返し練習に向いていること」という基準を満たしにくい。このことと、語数が多いと学習者の負担が高くなるということに配慮し、上限を500語に設定した。
6. イメージ表現と曲のタイトルを別の枠で提示し、マッチすると思われる組み合わせを記入するという形式も考えられたが、カフェでくつろいでいる顧客に無償で調査を依頼するため、回答者の負担が最小限になるよう、○もしくは×を記入するだけという形式をとった。
7. 曲中でのストーリーの変化とともに、出現する分節音の比率が変化するというように

については、楽曲の収録を依頼したヴォーカリストが歌い方の計画をたてた時のメモ書きにも記されている（中西・中川，2012，p. 134）。また，⑩『When You're Smiling』では、「あなたが笑顔でいれば」という内容の1-4行では閉鎖音が23語中2回しか出現しないのに対し、「でも，あなたが泣いていたら」で始まる5，6行目では16語中8回という比率に変化する。

## 参考文献

- Avery, P., & Ehrlich, S. (1992). *Teaching American English pronunciation*. Oxford: Oxford University Press.
- Carr, P. (著) 竹林 滋・清水あつ子 (共訳) . (2002). 『英語音声学・音韻論入門』 Carr, P. (1999). *English phonetics and phonology*. Oxford: Blackwell. 研究社.
- Collins, B., & Mees, I. M. (2008). *Practical phonetics and phonology: A resource book for students* (2<sup>nd</sup> ed.). New York: Routledge.
- Cook, A. (2000). *American accent training: a guide to speaking and pronouncing American English for everyone who speaks English as a Second Language* (2<sup>nd</sup> Ed.). New York: Barron's.
- EMI Music (Distributor). (2006). *Best Jazz Vocal 100* [Music CDs]. EMI Music.
- Hinton, L., Nichols, J., & Ohala, J. J. (Eds.) (1994). *Sound symbolism*. New York: Cambridge.
- 今井邦彦 (2007). 『ファンダメンタル音声学』 ひつじ書房.
- 井上謙一・北原延晃・久保野雅史・田尻悟郎・中嶋洋一・蓑山昇 (2006). 『決定版！続・授業で使える英語の歌 20 CD 付き』 開隆堂出版.
- IPA Chart, <http://www.langsci.ucl.ac.uk/ipa/ipachart.html>, available under a Creative Commons Attribution-Sharealike 3.0 Unported License. Copyright © 2005 International Phonetic Association.
- Jenkins, J. (1998). Which pronunciation norms and models for English as an international language? *ELT Journal*, 52:2, pp. 119–126.
- Jenkins, J. (2000). *The phonology of English as an international language*. Oxford: Oxford University Press.
- Jenkins, J. (2007). *English as a lingua franca: Attitudes and identity*. Applied Linguistics Series. Oxford: Oxford University Press.
- Kachru, B. B. (1992). *The other tongue: English across cultures*. (2nd ed.). Urbana: University of Illinois Press.
- Kachru, Y., & L. E. Smith. (2008). *Cultures, contexts, and World Englishes*. New York: Routledge.
- 感性リサーチネーミングラボ (著) 黒川伊保子 (監修) . (2012). 『人は語感で「いい・悪い」を決める』 河出書房.
- 柏木厚子 (2010). 『英語で歌おう！ーポップスの名曲からマザーグースまで』 アルク.

- Kenworthy, J. (1987). *Teaching English pronunciation*. New York: Longman.
- 木通隆行 (2004a). 『ネーミングの極意－日本語の魅力は音がつくる』 筑摩書房.
- 木通隆行 (2004b). 『日本語の音相－ことばのイメージを捉える技術, 表現する技術－』 小学館.
- 金田一秀穂 (2009). 『気持ちにそぐう言葉たち』 清流出版.
- 窪菌晴夫 (1998). 『音声学・音韻論』 くろしお出版.
- 黒川伊保子 (2004). 『怪獣の名はなぜガギグゲゴなのか』 新潮社.
- 黒川伊保子 (2007). 『日本語はなぜ美しいのか』 集英社.
- 黒川伊保子 (2009). 『名前カー名前の語感を科学する－』 イーステージ.
- Lane, L. (2010). *Tips for teaching pronunciation: A practical approach*. New York: Pearson.
- 牧野武彦 (2005). 『日本人のための英語音声学レッスン』 大修館.
- 松井千枝 (1978). 『英語音声学－日本語との比較による』 朝日出版.
- 村尾陸男 (1990–2010). 『ジャズ詩大全 1–20』 中央アート出版.
- 中西のりこ・中川右也 (2012). 『ジャズで学ぶ英語の発音』 コスモピア.
- 中山康樹 (2001). 『超ジャズ入門』 集英社.
- NHK NHKテレビ 『3 か月トピック英会話 歌って発音マスター！－魅惑のスタンダードジャズ編－』 2011年10-12月.
- 西村喜久 (1998). 『英単語は言霊で覚えなさい』 河出書房.
- Ramachandran, V. S. (著) 山下篤子 (訳). (2011). 『脳のなかの幽霊, ふたたび』  
Ramachandran, V. S. (2003). *The emerging mind*. London: BBC/Profile Books. 角川文庫.
- 竹林 滋・斎藤弘子 (2008). 『新装版 英語音声学入門』 大修館書店.
- 田守育啓・スコウラップ, ローレンス (1999). 『オノマトペー形態と意味－』 くろしお出版.
- 巽 一郎 (2006). 『CD付 英語の歌で覚える発音トレーニング』 中経出版.
- Thayne, D. (2013). 『音から単語の意味がわかる！ネイティブ流・新感覚ボキャビル術』  
*CNN English express, Mar. 2013, 15–24.*
- 富塚 章 (2002). 『はじめてのジャズ・ヴォーカル』 リットーミュージック.
- 富塚 章 (2008). 『はじめてのジャズ・ヴォーカル レパートリー増強編』 リットーミュージック.
- Wilson, J. (1999). Songs and instrumentals. *Jazz standards, Jazz history, musicology, biographies and books*. Retrieved from <http://www.jazzstandards.com/compositions/index.htm>.
- 山梨正明 (2012). 『認知意味論研究』 研究社.
- 吉村耕治編 (2004). 『英語の感覚と表現－共感覚表現の魅力に迫る－』 三修社.

Appendix A. 英語母音表

### 英語母音表 (基本となる母音)

辞書によっては(カッコ)内の記号で表記される場合もあります。

広い ← ..... 口の横幅 ..... → 狭い 小さい ↑ ..... 口の縦幅 ..... ↓ 大きい	i:(i) <span style="color: blue;">イ</span> i(i) e(e) <span style="color: blue;">エ</span> æ	u:(u) <span style="color: blue;">ウ</span> u(u) ə <span style="color: blue;">オ</span> ʌ ɔ: ɑ
--	--	--

### 二重母音

はじめの記号で表される音を発音してから、後の音を添えるようにして発音します。

### r 母音

はじめの記号で表される母音を発音してから、舌を /r/ の位置に移動させます。

中西・中川 (2012, pp. 8-9.)

Appendix B. 英語子音表

### 英語子音表 (基本となる子音)

発音法		発音点									
		① ②	② ⑤	③ ⑤	③ ⑧	③ ⑦	④ ⑧	④ ⑧	④ ⑧	⑤	
閉鎖音 (破裂音)	無声	p			t				k		
	有声	b			d				g		
破裂音	無声					tʃ					
	有声					dʒ					
摩擦音	無声		f	θ	s	ʃ				h	
	有声		v	ð	z	ʒ					
鼻音	無声					n				ŋ	
	有声	m									
側音	無声					l					
	有声					r		j			
接近音	無声										
	有声	w									

白枠内の音は、ふたつの場所をつけて出す音。  
 色網掛け内の音は、ふたつの場所を近づけて出す音。  
 /h/は、のどの奥から出る音。



- ① 上くちびる
- ② 下くちびる
- ③ 舌の先
- ④ 舌の奥
- ⑤ 上歯の先
- ⑥ 歯の付け根
- ⑦ ⑧の後ろ
- ⑧ 上あご (硬いところ)
- ⑨ 上あごの奥 (軟らかいところ)
- ⑩ のどの奥

### 英語子音 (口の形と舌の位置)

①~⑩の数字は、左の図参照。

閉鎖 破裂	/p, b/ ①②	/t, d/ ③⑧	/tʃ, dʒ/ ③⑦	/k, g/ ④⑧
摩擦	/f, v/ ②⑤	/θ, ð/ ③⑤	/s, z/ ③⑧	/ʃ, ʒ/ ③⑦
鼻音 側音	/m/ ①②	/n, l/ ③⑧⑦	/ŋ/ ④⑧	
接近	/w/ ①②	/r/ ③⑧⑦	/j/ ④⑧	

### 子音連続の例

/+p/	/+t/	/+k/	/+d/	/+s/	/+m/	/+n/	/+l/	/+r/	/+w/
/sp/	/pt/	/sk/	/nd/	/ps/	/sm/	/tn/	/pl/	/pr/	/tw/
/mp/	/kt/	/ld/	/ks/			/dn/	/tl/	/tr/	/kw/
	/ft/					/sn/	/kl/	/kr/	/sw/
	/st/						/bl/	/br/	
	/t/						/dl/	/dr/	
							/gl/	/gr/	
							/fl/	/fr/	
							/sl/	/sr/	

後半の文字で示される音を発音する口の形を準備しておいて、前半の文字で示される音を加えるようにして発音する。

中西・中川 (2012, pp. 10-11.)

## Appendix C. 音楽関係者アンケート

**ジャズ曲イメージ アンケート A**(表の上に表示されているイメージに合わせていれば○、違っていれば×、分からなければ空白にしてください。)

※○、×、空白の数はいくつでも構いません。(○ばかり、×ばかり、空白ばかりになっても構いません。)

※コメントがあれば、この紙の裏側にお書きください。

<b>優しい, 柔らかい</b>		<b>重い, 暗い</b>	
FEELINGS(フィーリングズ)		CRY ME A RIVER(クライ ミー ア リバー)	
SOMEDAY MY PRINCE WILL COME(いつか王子様が)		MOON RIVER(ムーン リバー)	
MY ROMANCE(マイ ロマンズ)		MORE THAN YOU KNOW(モア ザン ユー ノウ)	
<b>重厚, 壮大</b>		<b>遊び心, 複雑</b>	
THE DAYS OF WINE AND ROSES(酒とバラの日々)		DAY BY DAY(デイ バイ デイ)	
LOVE (L-O-V-E)(ラブ)		AIN'T MISBEHAVIN'(エイント ミスビヘイビン)	
MY FAVORITE THINGS(私のお気に入り)		YESTERDAY(イエスタデイ)	
<b>密やか, 静けさ</b>		<b>でしゃばらない, 献身的</b>	
SING, SING, SING(シング・シング・シング)		UNFORGETTABLE(アンフォゲッタブル)	
MY FOOLISH HEART(マイ フーリッシュ ハート)		ALONE TOGETHER(アローン トゥギャザー)	
THE GIRL FROM IPANEMA(イパネマの娘)		YOU'D BE SO NICE TO COME HOME TO (ユード ビー ソウ ナイス)	
<b>心残り, 停滞</b>		<b>甘えん坊, 畏怖</b>	
BYE BYE BLACKBIRD(バイバイ ブラックバード)		JOHNNY GUITAR(ジョニー・ギター)	
STAND BY ME(スタンド バイ ミー)		I DON'T KNOW WHY(アイドント ノウ ホワイ)	
GEORGIA ON MY MIND(ジョージア オン マイ マインド)		MORE THAN YOU KNOW(モア ザン ユー ノウ)	
<b>軽やか, 前進</b>		<b>笑顔, 陽気</b>	
TAKE FIVE(テイク ファイブ)		SING, SING, SING(シング・シング・シング)	
ROUTE 66(ルート66)		IT'S ONLY A PAPER MOON(ペーパームーン)	
CHEEK TO CHEEK(チーク トゥ チーク)		FEELINGS(フィーリングズ)	

このアンケートは、神戸学院大学 経営学部 中西のりこが、ジャズ曲を使った英語学習の教材づくりの一環として行うものです。いただいた回答は研究目的以外に使用しません。ご協力お願いいたします。

**ジャズ曲イメージ アンケート B**(表の上に表示されているイメージに合わせていれば○、違っていれば×、分からなければ空白にしてください。)

※○、×、空白の数はいくつでも構いません。(○ばかり、×ばかり、空白ばかりになっても構いません。)

※コメントがあれば、この紙の裏側にお書きください。

<b>笑顔, 陽気</b>		<b>軽やか, 前進</b>	
SING, SING, SING(シング・シング・シング)		TAKE FIVE(テイク ファイブ)	
IT'S ONLY A PAPER MOON(ペーパームーン)		ROUTE 66(ルート66)	
FEELINGS(フィーリングズ)		CHEEK TO CHEEK(チーク トゥ チーク)	
<b>甘えん坊, 畏怖</b>		<b>心残り, 停滞</b>	
JOHNNY GUITAR(ジョニー・ギター)		BYE BYE BLACKBIRD(バイバイ ブラックバード)	
I DON'T KNOW WHY(アイドント ノウ ホワイ)		STAND BY ME(スタンド バイ ミー)	
MORE THAN YOU KNOW(モア ザン ユー ノウ)		GEORGIA ON MY MIND(ジョージア オン マイ マインド)	
<b>でしゃばらない, 献身的</b>		<b>密やか, 静けさ</b>	
UNFORGETTABLE(アンフォゲッタブル)		SING, SING, SING(シング・シング・シング)	
ALONE TOGETHER(アローン トゥギャザー)		MY FOOLISH HEART(マイ フーリッシュ ハート)	
YOU'D BE SO NICE TO COME HOME TO (ユード ビー ソウ ナイス)		THE GIRL FROM IPANEMA(イパネマの娘)	
<b>遊び心, 複雑</b>		<b>重厚, 壮大</b>	
DAY BY DAY(デイ バイ デイ)		THE DAYS OF WINE AND ROSES(酒とバラの日々)	
AIN'T MISBEHAVIN'(エイント ミスビヘイビン)		LOVE (L-O-V-E)(ラブ)	
YESTERDAY(イエスタデイ)		MY FAVORITE THINGS(私のお気に入り)	
<b>重い, 暗い</b>		<b>優しい, 柔らかい</b>	
CRY ME A RIVER(クライ ミー ア リバー)		FEELINGS(フィーリングズ)	
MOON RIVER(ムーン リバー)		SOMEDAY MY PRINCE WILL COME(いつか王子様が)	
MORE THAN YOU KNOW(モア ザン ユー ノウ)		MY ROMANCE(マイ ロマンズ)	

このアンケートは、神戸学院大学 経営学部 中西のりこが、ジャズ曲を使った英語学習の教材づくりの一環として行うものです。いただいた回答は研究目的以外に使用しません。ご協力お願いいたします。